

トニー・チャップマン機長の発言

2013年10月25日、東京

みなさんこんばんは。私は、アメリカン航空のキャプテンで、ワンワールドアライアンス乗員協議会（OCCC）の議長でもあるトニー・チャップマンと申します。OCCCは、日本航空の乗員を含む、2万8千人のワンワールドアライアンス加盟航空会社の乗員で構成されています。

OCCCは日本航空の破たんとリストラに大変注目しており、年齢と病歴をもとにした一部乗員の解雇に大変な懸念を抱いています。これら解雇における日本航空経営の行為は、基本的な人間の尊厳に対する侮辱であると考えています。さらに、この行為は安全を重視する私たちの航空産業ではあってはならないことです。

この二年、日本航空経営は乗員組合とのこの問題での双方受け入れ可能な解決策の交渉を拒否してきました。さらに日本政府と日本航空経営は、ILO条約87号、98号条約違反（結社の自由委員会2844号事件）であるとした国際労働機関（ILO）の勧告を受け入れていません。

OCCCは今週東京で行われた会議で、解雇された乗員への支援声明、東京宣言を採択しました。声明に込めたメッセージは「日本政府と経営は現在のグローバルスタンダードを守れ」であります。

OCCCは原告とその仲間のみなさんに公平かつ公正な解決がもたらされるまで、全力で支援いたします。

ありがとうございました。